

第3章-3 東アジア文化圏の形成 (隋・唐)

(1). 隋 (581 ~ 618) ……首都 大興城 (西安)

初代 文帝 (本名 楊堅、581-604)

589 南朝の陳を滅ぼし全国統一

均田制・租庸調制・府兵制 ……唐の項で詳述

科挙 (598) ……官吏登用試験 (～ 1905) ……宋の項で詳述

第2代 煬帝 (604-18)

国内……大運河 建設……江南の豊富な物資を華北に供給

対外……高句麗 遠征、3回失敗 → 農民反乱 → 618 唐に禅譲

(2). 唐 (618 ~ 907) ……首都 長安 (西安)

初代 高祖 (本名 李淵、618-26)

第2代 太宗 (本名 李世民、626-49) ……事実上の建国者、貞観 の治

▶ 法……律 (刑法)・令 (行政法)・格 (律令の補足改正)・式 (施行細則)

▶ 中央官制……三省・六部・一台・九寺・五監

・三省……中書省 (詔勅起草)

門下省 (詔勅案審議) ……門閥貴族の牙城 (封駁 = 拒否権あり)

尚書省 (執行、六部を統率)

↓

・六部……吏部 (官吏任免、貴族の牙城)

戸部 (戸籍・均田・徴税)、礼部 (祭祀・文教。科挙実施)

兵部 (軍事)、刑部 (司法)、工部 (土木)

・一台……御史台 (監察)

▶ 土地・人民の支配

・均田制……均等に土地を支給 (隋代から、奴隸・耕牛への支給は廃止)

口分田……一代限りの支給 (死後返却)、丁男 80 畝 etc.

永業田……世襲、身分に応じて面積制限、丁男 20 畝 etc.

上級官僚 = 貴族に職分田支給、大土地所有も存続

・租庸調制……丁男 (= 口分田の支給をうけた成人男子) を対象にした課役

租…… 田 100 畝 (= 丁男 1 人) につき、粟 2 石

役……都での労役、年 20 日 (+15日で調免除、さらに+15日で租免除)

庸……辺地の者は物納で代える (絹 6 丈 or 布 7 丈 5 尺)

調……絹・綾など 2 丈 + 綿 3 両 or 布 2 丈 5 尺 + 麻 3 斤

雑徭……地方での労役 40 ~ 50 日

・府兵制……兵役の間は租庸調等免除 (但し武器は自弁)

衛士 (都の警備)、防人 (国境防衛、一生に一度 3 年)

- ▶ 対外政策・・・ **羈縻政策**・・・服属した周辺異民族を懐柔
都護府・・・長官である都護、及び官吏・兵士は中央から派遣
その支配下の州の長官等に服属した異民族の族長を任命

(3). 唐と隣接諸国

<朝鮮半島>

三国時代・・・ **高句麗** (北、BC1c～)、 **新羅** (南東、AD4c～)、 **百濟** (南西、AD4c～)

663 唐・新羅の連合軍、百濟を滅ぼす (この時日本は百濟援助＝白村江の戦)

668 唐、高句麗を滅ぼし安東都護府設置

→ 東北地方に **渤海** 国 (698-926、ツングース系靺鞨人＝高句麗の残存勢力)

676 **新羅**、唐の勢力を排除し半島統一 (-935)、首都・金城 (現・慶州)
仏教文化、 **骨品** 制・・・身分制度 (骨＝王族、品＝非王族)

<西域・チベット>

640 唐、高昌国を滅ぼし安西都護府設置 → 658 龜茲を滅ぼし移転

↔ **吐蕃** (チベット王国、首都ラサ)、建国者 **ソンツェン・ガンボ** (?-649)

763/5 安史の乱の際、長安占領 **チベット仏教**の成立

790 安西都護府・安西四鎮・北庭都護府、吐蕃により滅ぶ

<雲南・ヴェトナム>

679 安南都護府 ↔ 雲南のチベット・ビルマ系国家 **南詔** 国 (738-902)

<西域～北方>

トルコ系 **突厥** 大帝国 (552 成立、583 東西分裂)

↔ 安北都護府・単于都護府

630 東突厥を討つ (682 復興) 657 西突厥を討つ (→分散)

744 トルコ系 **ウイグル**、東突厥を滅ぼしモンゴルに建国

(安史の乱の際、唐室を援助)

※ 751 **タラス** 河畔の戦い・・・唐軍、アッバース朝に敗北 (**製紙法西伝**)

(4). 唐の動揺と滅亡

▶ **武韋** の禍

・ **則天武后** (高宗の皇后)

690 息子2人 (中宗・睿宗) を廃し自ら即位、国号を **周** とする
貴族らの反抗を抑えるために科举官僚を重用

この政治改革を評価して「**武周革命**」と呼ぶ

705 その死に際して中宗に譲位。唐が復活。

・ **韋后** (中宗の皇后)・・・710 夫・中宗を毒殺

↔ 睿宗の子・李隆基が韋后一派を討ち、父・睿宗を復位させる

第6代 玄宗 (712 ~ 56) ……治世前半 = 開元 の治 (綱紀肅正、農民生活安定図る)

しかし 740 楊貴妃、宮中に入る。 752 楊国忠、宰相となる
751 安禄山 (ウズグス人、驍騎人)、3 節度使を兼任、楊国忠と抗争

755~63 安史の乱 ……安禄山とその部下 史思明 の反乱)

玄宗、四川に逃れ、子の肅宗に譲位 → ウイグル の援兵を導入し鎮圧

▶ 諸制度の変更

・ 莊園制 (←均田制の崩壊)

商業発達で富を蓄積した富豪が、その財力で土地を兼併し
没落逃亡した均田農民を吸収して小作人 (佃戸) とする

新興地主階級 = 科挙官僚の母体 (宋代の 士大夫)

一方、中世以来の門閥貴族は、武韋の禍・安史の乱で完全に没落

・ 募兵制 (←府兵制の崩壊)

兵役は均田農民の最大の負担 → 737 長征健児制 = 完全な職業軍人制に

節度使 ……辺境防衛の募兵軍団の指揮官 (710 初設)

軍事のみならず行政権も併せ持つ。

のち内地にも設置 → 地方軍事政権割拠 = 藩鎮

・ 兩税法 (←租庸調制の崩壊) ……780 宰相 楊炎 の建策

人民を 現住地 に登録

夏・秋の 2 回徴税 (華北……夏 = 麦の収穫、秋 = 粟の収穫)

人民の 土地・財産所有額 に応じ課税, 原則として 錢納 (農民は物納可)

※塩の専売 (758) ……これ以後、歴代王朝伝統の主要財源に ⇔ 密売商人

塩 1 斗原価 10 銭を、110 銭で専売 → まもなく 370 銭に

▶ 滅亡

875-84 黄巢 の乱 ……塩の密売業者、王仙芝・黄巢らの指導下に農民反乱

朱温、反乱軍から寝返り乱を鎮圧。(‘全忠’ の名を賜る)

907 朱全忠、唐を滅ぼす。

(5). 五代十国 時代 (907 ~ 60)

▶ 五代……華北中原に 5 つの短命王朝、藩鎮出身、武断政治

- ①. 後梁 (907 ~ 23) ……朱全忠が建国、首都・汴州 (③~⑤も同じ)
- ②. 後唐 (923 ~ 36、洛陽)
- ③. 後晋 (936 ~ 46) ……契丹の援助で建国 → 燕雲十六州 を割譲
- ④. 後漢 (946 ~ 50)
- ⑤. 後周 (951 ~ 60)

▶ 十国……各地に合計 10 国が興亡 (地図で確認) ……藩鎮が独立

(6). 唐の経済

農業進歩……華北＝麦・粟の2年3作、華中華南＝稲・麦の二毛作

商業発展……ただし、まだ都市は軍事都市的性格

長安などの都城では商業を許可された地区（市）でのみ

←次第に商業都市も出現、貨幣経済も発展

対外貿易……陸路＝イラン系 ソグド人 商人

海路＝アラブ系イスラム商人

(7). 唐の文化

貴族的文化……貴族はパトロン、南朝の華麗な文化と北朝の剛健な文化の融合

国際的文化……西方の影響、東アジア文化圏形成

- ▶ 儒学……訓詁学 孔穎達 (574～648) ……『五経正義』
太宗の命で編纂、経典の解釈統一（←科挙）
- ▶ 文学 ・ 唐詩 ……絶句、律詩などの形式確立（→科挙の試験科目に）
 - 盛唐……李白 (701～762、詩仙)
 - 杜甫 (712～770、詩聖) ……「春望」
 - 王維 (701～761、自然詩人)
 - 中唐……白居易 (772～846、楽天) ……「長恨歌」
 - ・ 文章……中唐以後、“古文復興”（→宋代ルネサンスの先駆）
 - 韓愈 (768～824) ……「推敲」の逸話
 - 柳宗元 (773～819)
- ▶ 書道 ・ 初唐……王羲之流の典雅な書が流行（←太宗が王羲之の収集家）
 - ・ 盛唐……顔真卿 (709～805) 力強い楷書、革新的（彼の気骨ある人生を反映）
- ▶ 絵画……山水画（南朝に始まり唐・宋期にさかんになる）
 - 呉道玄 (680～750)
 - 王維 ……水墨単彩山水画の創始、文人画・南宗画の祖
- ▶ 工芸……唐三彩（陶器の副葬品、白・緑・褐色に彩色して上薬をかける、西方伝来の手法）
- ▶ 宗教 ・ 仏教 玄奘 (602～64) ……インドへ陸路往復、「大唐西域記」
義浄 (635～713) ……インドへ海路往復、「南海寄帰内法伝」
 - ・ 道教……帝室により保護 845 武宗による「会昌の廃仏」
(この時、三夷教も弾圧)
 - ・ 三夷教……
 - マニ教（摩尼教）
 - ゾロアスター教（祆教、ソグド人のみ、中国人へは布教せず）
 - ネストリウス派キリスト教（景教）…781 大秦景教流行中国碑
 - ・ イスラム教（回教）……広州、泉州などに駐在するアラブ商人

第6章－2 東アジア諸地域の自立化 (中国の近世、宋)

1. 東アジアの勢力交替

- ▶ 朝鮮… 高麗 (918～1392) 建国初代 王建 (918～43)、首都・開城
「大蔵経」(仏教經典を集成)、高麗青磁
- ▶ 雲南… 南詔国にかわり 大理国 (937～1254)
- ▶ ヴェトナム… 李朝 大越国 (1009～1225)

2. 北方の諸勢力

- ▶ 遼 (916～1125, モンゴル系 契丹 族)

建国初代 耶律阿保機 (太祖, 916～26)

916 契丹国建国 (→ 946 遼 → 982 契丹国 → 1066 遼)

926 渤海国を滅ぼす

936 後晋の建国を援助し、燕雲十六州 獲得

農耕漢民族をも支配下に置く (= 征服王朝の初め)

- ・ 二重統治

南面官… 農耕民 (漢人、渤海人)	→ 中国的州県制
北面官… 遊牧民 (モンゴル人)	→ 部族制
- ・ 漢化を避け国粹保存に努める… 920 契丹文字 (しかし漢字の影響あり)

1004 澶淵の盟 … 宋と和解、歳幣外交を強いる

銀10万両・絹20万疋 (1042より20万両・30万疋 ～1123まで)

※ 遼の奢侈貿易… 歳幣は贅沢品の購入で西方へ流出するのみ、発展には結びつかず

- ▶ 西夏 (1038～1227, チベット系 タングート 族、正式国号は「大夏」)

建国者 李元昊、首都・興慶 西夏文字

シルクロード入口を制し貿易活動。宋軍を破り歳幣外交を強いる

- ▶ 金 (1115～1234, ツングース系 女真 族 = 半農半獵)

建国初代 完顔阿骨打 (ワヤンアグダ、太祖、1115～23)

遼の支配下から独立、女真文字

- ・ 二重統治

部族制… <u>猛安</u> ・ <u>謀克</u>	
1 猛安 = 10 謀克 = 3000 戸、兵は 1 謀克 100 人	
華北… 中国風の官制	

1125 宋と結び遼を滅ぼす

↓

※ 西遼 (カラ=キタイ、1132～1211)

遼の皇族 耶律大石、カラ=ハン朝を滅ぼし中央アジアに建国

3. 宋の統治

(1). 宋 (北宋、960～1126) ……首都 開封 (=汴州)

初代 太祖 (名 趙匡胤、960-76)

- ・ 文治主義 ……節度使から軍事・行政権をとりあげる ↔ 禁軍 (皇帝親衛軍) 強化
 - ・ 科挙 の整備 …… 殿試 を行う (972)
解試 (郷試、地方試験)、省試 (会試、中央試験) の上に追加
宮中、皇帝臨席の下で試験 → 成績順に任用される = 貴族政治の崩壊
- 士大夫階級 ……新興地主階級 (形勢戸)
官吏を出した戸は“官戸”として戸籍に明記され徭役免除、両税も減額

⇓

- ・ 社会矛盾の拡大
官戸の増加 …… 政府の財政収入減少 → 一般民戸の負担増加
防衛費増大による財政難、農村 (物調に苦しむ) と都市 (驕奢) の格差拡大

▶ 新法 ……第6代 神宗 (1067-85)、王安石 を宰相に登用 (1068-76)

農民・中小商工業者の生活安定と生産増加、財政の確立、軍事力強化

- ① 青苗法 ……農民に対する低金利の融資
- ② 均輸法 ……予算を立て、物資を多く産する所で必要量のみ調達する
(余分に物資調達 → 不要分を安く政商に払下げ、という悪循環を崩す)
- ③ 市易法 ……市易務 (開封)、市易司 (地方大都市) を設置。= 国立の銀行兼倉庫業機関
中小商工業者の商品が売れない時、それを買上げたり、抵当にうけて融資をする
- ④ 募役法 ……予算を立て、労役義務のある上等戸から免役金を徴収し、労働力提供者を雇う
- ⑤ 保甲法 ……農村自警団の組織、警察業務に当らせ、軍事教練を施す
- ⑥ 保馬法 ……民間に官馬または代価を給して馬を養わせ使役に供し、戦時の軍馬を確保
(遼・西夏からの馬の供給がとまり軍馬不足だった)

→ 党争 …… 新法党 VS 旧法党

1086 旧法党の 司馬光、宰相となり新法廃止 (同年、司馬光・王安石とも死)
以後、新法の廃止や復活に伴う政治混乱が続く

1125 宋、金と結んで遼を滅ぼす
この後、宋が違約 → 金の開封包圍。徽宗退位、欽宗即位

1126 靖康の変 ……金が、徽宗・欽宗らを北方連行、北宋滅ぼし華北支配

(2). 南宋 (1127～1279) ……高宗 (1127-62, 欽宗弟)、首都 臨安 (=杭州)

対金政策 …… 秦檜 (和議派) VS 岳飛 (主戦派)

1141 秦檜、冤罪により岳飛を殺す

1142 金と和す ……淮河を国境とし、宋が臣礼・歳幣

徽宗の棺のみ返還 (生きていた欽宗は南宋側が要求せず)

(3). 宋代の社会・経済

- ▶ 荘園制 & 佃戸制・・・隷属的小作人（法的には自由民だが、現実的には地主の支配からの脱却は困難）
- ▶ 江南の発展＝「江浙（蘇湖）熟すれば天下足る」・・・稲作
手工業も発展、景德鎮の陶磁器（白磁・青磁などの磁器が作られる）
- ▶ 商業の発展・・・北宋の開封、南宋の臨安（杭州）とも商業都市
同業者組合・・・行（商人）、作（手工業者）
対外貿易・・・市舶司による国家管理
貿易港・・・杭州、泉州（マルコ・ポーロが「ザイトン」と記述）、廣州 etc.
世界初の紙幣・・・交子（北宋）・会子（南宋）、銅銭と併用（兌換紙幣）
初めは民間発行の手形 → やがて宋政府が発行権を管理

(4). 宋代の文化

中世の形式主義打破＝“宋代ルネサンス”

知識人階級の文化・・・理知的（←科挙）、民族主義的（←外患） ⇔ 唐代の国際文化
庶民文化も発展

- ▶ 歴史 司馬光（1019-86）「資治通鑑」・・・編年体による通史（BC.403-AD.959）
- ▶ 宋学・・・儒学が訓詁学から脱却し新たな展開

- 北宋・・・周程学派＝性理学 ←仏教（禅宗）の影響で自然と人間関係を考察
周敦頤（1017-73）「大極図説」
程顥（1032-85、ていこう）、程頤（1033-1107、てい）
- 南宋・・・朱熹（1130-1200）・・・朱子学を大成
 - ①. 四書の重視・・・「論語」「孟子」「大学」「中庸」（「五経」は古典、「四書」は哲学書）
 - ②. 性理学・・・理気二元論
本来、天の理と人の性（性）は一体である（＝性即理）
しかし凡人においては、気（人の欲望）が理性を抑圧している
→格物致知（＝窮理）により理性を取戻す（学問重視、主知主義）
 - ③. 大義名分論・・・君臣の別、華夷の別を明らかにする

→君主独裁制正当化→官学として固定化（科挙のテキストとなる）

⇕

陸九淵（象山、1139-92）→明代の陽明学の先駆
唯心論、心即理（人の心が宇宙の本体）、徳育重視（⇔朱子の主知主義）

▶ 文学

- 散文・・・“古文復興”＝史記などが模範、形式より内容重視（＝唐宋以来のルネサンス）
欧陽脩（1007-72）、蘇軾（1036-1101、蘇東坡「赤壁賦」）
王安石、蘇洵、蘇轍、曾鞏（＋唐の韓愈・柳宗元で「唐宋八大家」）
范仲淹「岳陽楼記」
- 宋词・・・楽曲の歌詞、庶民から上流まで広い階層に行われる

- ▶ 山水花鳥画 院体画 (北宗画) ……彩色華麗、宮廷中心、徽宗皇帝「桃鳩図」
文人画 (南宗画) ……水墨単彩、知識人中心
- ▶ 宗教
 - ・ 道教 全真教 ……金の支配下の華北で、儒・仏・道の融合
正一教 ……江南で、従来の道教
 - ・ 仏教 ……禅宗 (知識人)、浄土教 (庶民)
- ▶ 三大発明 …… 火薬 ・ 羅針盤 ・ 印刷術 (紙とあわせて中国の四大発明)

第6章-3 モンゴル民族の発展 (中国の近世、元)

(1). モンゴル帝国

遼の滅亡後、分裂していたモンゴル諸部族に統合の動き

- ①. チンギス=カン(ハン) (テムジン, 1162-1227、太祖)
 - 1206 モンゴル諸族統一、クリルタイ (族長会議) にて大ハンに推戴
 - 1211 金に侵略開始
 - 1215 燕京 (北京) 攻略、金は開封遷都
 - ※耶律楚材 (1190 ~ 1243) ……金に仕えていた遼の王族
 - 1215 チンギス=ハンの政治顧問となる
→のち、オゴデイの下で中書令として漢人統治に功績
 - 1219 西征開始、ナイマン部を滅ぼし西遼の旧領地を征服
 - 1220 ホラズム朝を滅ぼす
 - 1227 西夏を滅ぼす。東帰途中で死去。

※初めて「カアン(ハーン, Khaan)」と称する
 ≡ =大モンゴル皇帝
 「カン(ハン, Khan)」=部族長

- ②. オゴデイ (オゴタイ) (太宗、1229-41)
 - 1234 金を滅ぼし華北支配
 - 1235 首都 カラコルム (和林) 建設
 - 1236-43 バトゥ、ロシア遠征
 - 1240 キエフ 公国を滅ぼす (→ “タタールのくびき”)
 - 1241 ワールシュタット の戦い …… ドイツ諸侯連合軍を破る
 - 1243 キプチャク=ハン国建国

- ③. グユク (定宗、1246-48) ……早死→大ハン位はオゴデイ家からトゥルイ家へ

- ④. モンケ (憲宗、1251-59)
 - 1253-58 フレグ (フラグ)、西アジア遠征
 - 1258 バグダード攻略し アッバース 朝を滅ぼす → イル=ハン国建国

- ⑤. クビライ (フビライ) (世祖、1260-94)
 - 1266-1301 カイドゥ (ハイドゥ) の乱
オゴデイ家のカイドゥが、チャガタイ家と結んで反乱



クビライは中国本土に勢力確立し、弟フレグのイル・ハン国と結ぶ

▶ 帝国分裂……分割相続、広大すぎて画一支配不可能

〔 チャガタイ=ハン国 (※~1389、アルマリク) → 1369 ティムール帝国
イル=ハン国 (1258-1353、タブリーズ) 「
キプチャク=ハン国 (1243-1502、サライ) → 1480 モスクワ大公国

※かつて「オゴタイ=ハン国」もあったとされていたが、現在、それは「ハイドゥの国」でしかなく、これが14世紀初めにチャガタイ家に乗っ取られて「チャガタイ=ハン国」となったとされる。

(2). 元 (1271 ~ 1368)

▶ 世祖 クビライ (フビライ、1260-94)

1264 大都 (北京) 遷都、1271 国号を元とする

1279 厓山の戦い……南宋を滅ぼす

▼ 対外

吐蕃……1253 服属

雲南……1254 大理国を滅ぼす。

→この時、タイ人が南下してスコタイ朝 (1257) 建国→アユタヤ朝 (1351-1767)

高麗……1259 服属

日本……1274 文永の役、1281 弘安の役 (= 元寇、失敗)

ベトナム……陳朝 (1225-1400)、元軍侵入を3度退ける。

字喃 (チュノム、独自の文字)

ミャンマー……1287 パガン朝 (1044 ~) を滅ぼす → ペギー朝 成立 (1287-1539)

ジャバ……元軍侵攻をきっかけに マジヤパヒト王国 (1293-1520) おこる

▼ 国家体制……モンゴル人第一主義、二重統治

〔 支配階級 { ①. モンゴル人
②. 色目人 ……チンギス=ハンの時服属した西域人
被支配階級 { ③. 漢人 ……オゴデイの時服属した金の統治下の住民
④. 南人 ……クビライの時服属した南宋統治下の住民

〔 中央……中書省 (その長官=丞相) が行政機関として尚書省・六部を統率
地方……行中書省 (行省、省、= “中書省の出張所” の意味)

※現在の中国の行政区画が~省であるのはここに由来する

※モンゴル人は中国文化に劣等感をもたなかった (先にイスラム文化を知っていたから)

公用語 = モンゴル語

公文書 = パスパ 文字 ……1269 チベット仏教僧 パクパ (パスパ) が作成
クビライの帝師

科挙停止 ……1313 復活するも、漢人は高官にはなれず

※中国社会に根本的変化なし……モンゴル人は極めて少数で、中国社会に寄生していただけ

▼経済

貨幣制度…… 交鈔 = 金・元の不換紙幣（銅銭発行無し）

交通整備…… 駅伝制（= ジャムチ、站赤）

幹線道路に駅（站）を置き、官命旅行者（←牌を交付）の便宜を図る

▼衰退

原因 ①. 大ハン位の相続争い

②. チベット仏教優遇による奢侈→財政難→交鈔乱発・専売強化→インフレ

1351～68 紅巾の乱……白蓮教徒（仏教的な民間信仰）の農民反乱

1368 朱元璋、南京より北伐して大都攻略、元滅亡

（明の建国者）

→元の残存勢力はモンゴル高原へ（北元、～1391）

（3）. 元の文化

東西交流、庶民文化は盛ん ⇔ 伝統文化、特に儒学は不振

▶ 庶民文芸…… 元曲

戯曲、曲（歌）・科（しぐさ）・白（せりふ）からなる歌劇の台本
「西廂記」、「漢宮秋」、「琵琶記」

▶ 天文暦学…… 郭守敬、1280 授時曆（太陰太陽曆）作成

イスラム天文学を取り入れる。→江戸時代の貞享曆に影響を及ぼす

▶ 宗教……宮廷がチベット仏教を保護し浪費

▶ 西洋人の東訪

プラノ・カルピニ（イタリア人）……教皇インノケンティウス4世使節
1246年、カラコルム着（→グユク）

ウィリアム・ルブルック（フランドル人）……フランス王ルイ9世使節
1254年、カラコルム着（→モンケ）

モンテ・コルヴィノ（イタリア人）

1294年、大都大司教に着任。中国へのカトリック布教の初め

※以上3名はフランチェスコ修道会

マルコ・ポーロ（ヴェネツィア商人）……著書「世界の記述（東方見聞録）」
1275年、陸路で大都着、→クビライに仕える

1292年、帰国（イル=ハン国までは海路で）

※イブン・バトゥータ（モロッコ人）……著書「三大陸周遊記」

元に来たと書かれているが、疑義あり。